

特許抄録

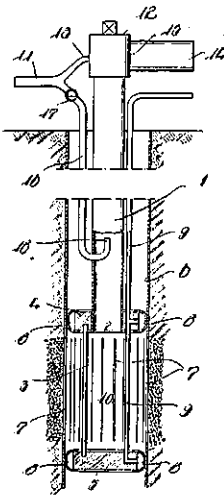
第 20 卷 第 7 號 昭和 9 年 7 月

鑿井滯水層洗滌装置

(特許第 105070 號, 出願 7-9-10, 特許權者 (發明者) 中澤直幹氏)

この發明は、收水孔 (7) 外側に膠結せる細砂組織を鑿井管内より外方に向け壓縮空氣を奔出せしめてその

第 1 圖



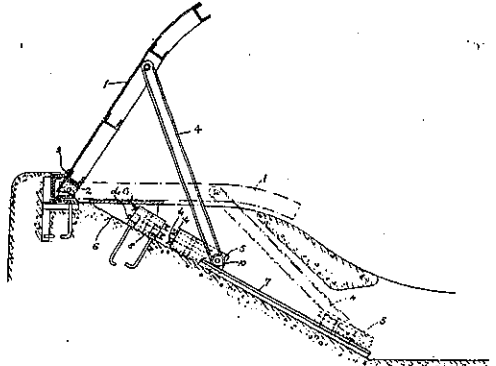
崩壊を促し、且つ管外より湧出水及び氣泡と共に微砂を管内に流入せしめてこれを地上に噴出せしめ、右の如き壓入噴出の作用を交互に繰返し滯水層組織を攪拌して軟化せしめつゝ洗滌せんとするものであつて、右の作用を適確且つ正確ならしむるため收水口を挿んで密閉室 (10) を揚水管 (1) 下部に形成せしむることを特徴としたものである (第 1 圖参照)。

決瀉板操縦装置

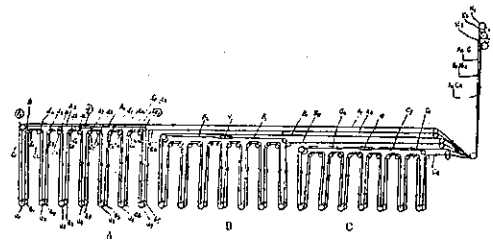
(特許第 105695 號, 出願 8-4-21, 特許權者 (發明者) 田原久吉氏)

この發明は、所要に際して貯水面を高め不要時には水を決瀉せしむべき瀉水溜に使用する決瀉板の特に分割せざる 1 連の長さものを起伏せしむる操縦装置であつて、(第 2 圖参照) 決瀉板 (1) の後部堤堰に設けたる溝の傾斜面 (6) に沿ひて上下 2 列に數個の滑車筐を設け、上列の滑車筐 (8) は傾斜面に固定し、下列の滑車筐 (5) は決瀉板の支持桿 (4) に樞着してこれと共に傾斜面の縦方向の誘導溝に沿ふて移動し得る如くしこれ等の滑車筐には同一軸に各 2 個の滑車 [(a₁b₁, a₂b₂, ...) 及び (c₁d₁, c₂d₂, ...)] を各自獨立に廻轉し得るやうに設け、上下滑車列の垂直中心線上任意點に固定せるターン・バックル (9) (第 3 圖参照) の兩端に 2 筋

第 2 圖



第 3 圖



の操縦綱 (A₁, A₂) を連結し、綱の兩端を反對側に置きたる誘導ローラー (e₁), (f₁) を經て下部滑車の列を異にせる兩端側のものより逐次上下の同列滑車を通して捲付けつゝこれを同一端側に導きて捲揚機の捲胴に連結し綱の兩端に牽引力を加ふる如くせしめ、以て決瀉板の起伏運動中その支持桿全部を均等速度にて移動せしめその負荷を均等ならしめたものである。

セメント製品の製造方法

(特許第 105800 號, 出願 8-4-5, 特許權者 (發明者) 倉矢貫一氏)

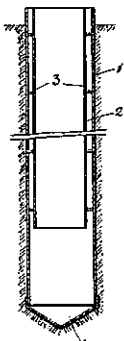
この發明は、セメント粉末程度に微細なる大谷石の粉末とセメントとを容積に於て 3~6:1 の割合に混合し、該混合物が濕氣を帶ぶる程度に加水したる後これを所要の型に充填壓縮し次で該型より取出しこれを水中に浸して加水せる後乾燥せしめてセメント製品を製造せんとする方法である。

基礎杭埋設法

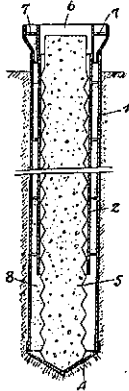
(特許第 105947 號, 出願 8-2-25)
(特許權者 (發明者) 大平又太郎氏)

この發明は、内外 2 管を同心圓的に且つ内管の下端が外管の下端よりも上方に在る如く連結して成る 2 重管の下端に沓金具を嵌着してこれを地中に打込みたる後、該 2 重管内に多數の突起を有するコンクリート製異形杭を挿入し次に該 2 重管の上部に内外管の間隙に環狀漏斗を嵌着し該漏斗より砂を注入して 2 重管を徐々に引揚ぐると共に該異形杭に連續打撃を與へつゝ前記漏斗よりの砂の注入を繼續して基礎杭を埋設する方法である (第 4~第 6 圖参照)

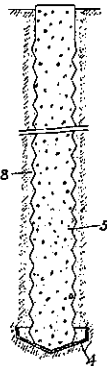
第 4 圖



第 5 圖



第 6 圖

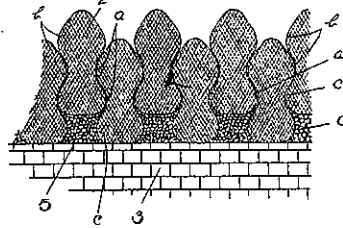


鐵線石籠類に依る沈床を用ひたる工 作物の破壊防止装置

(登録實用新案第 192177 號, 出願 8-9-25,
實用新案權者 (考案者) 萩原俊一氏)

この考案は、圖面に示すやうに周側面直立せる沈床用鐵線石籠類の左右兩側に凹部 (a) とこれに續く前後兩端に係嵌用凸部 (b), (c) とを設け 1 の石籠の凸部と他の石籠の凹部とを係嵌せしめつゝこれを數多隣列敷設して成る装置である (第 7 圖及び第 8 圖参照)。

第 7 圖



第 8 圖

